資料４

計画評価部会の報告について

１　計画評価部会の検討事項

東京都の自殺対策計画について評価・検証する。

２　開催日時

令和８年１月１９日（月曜日）午後３時半から午後５時半まで

３　議事等

（１）報告事項　東京都の自殺の現状等について
（２）報告事項　東京都自殺総合対策計画における各種取組の評価について
（３）討議事項　自殺総合対策の重点施策について

【主な意見】

（１）東京都自殺総合対策計画における各種取組の評価について

・都立高校での対策が推進されており心強い。職能団体として、スクールカウンセラーの資質向上に一層努力したい。
・学校でスクールソーシャルワーカーの常勤配置が非常に少ない。子供達と日頃からの信頼関係を構築し、アウトリーチ体制を持つ観点から、常勤配置の増加を検討してほしい。
・子供の自殺の背景に、家庭での支える力が弱いことも指摘されている。学校から家庭へのアプローチは難しい昨今であるが、子供の自殺を防ぐ観点では、家庭への支援の重要性を認識し、対応していく必要があるのではないか。

（２）早期に適切な支援窓口につなげる取組について

・医療機関では、医療以外のことには対応できないが、生活苦などの困り事を抱える方も医療機関を訪れていると考えられるため、地域の診療所等に相談先に関する情報を置くなどの対策も考えられるのではないか。
・民間団体での相談窓口も同様の状況だが、全ての相談を受けられる状態ではなく、ハイリスク者に相談窓口を案内してもつながらない場合があることは大きな課題である。

（３）若年層の自殺防止について

・医療との連携が必要と考えられても、医療資源や保護者の考え等の様々な要素により、必要時に連携できず、対応に苦慮するケースがある。

・若者が自傷等により救急搬送されるケース、保健所や保健センターに相談が入るケースが増えている。地域で医療、教育、福祉、保健の関係機関が連携していくためには、平時から顔の見えるつながりを持つことが大切である。
・小・中・高校生向けポケットメモについて、自殺の低年齢化を踏まえ、これまでより一学年低い小学４年生も配布対象としてはどうか。また、相談窓口を知らせるだけでなく、電話できる場所やチャットからの相談方法なども資料に含めると、支援が必要な子供が相談しやすくなるのではないか。

（４）遺された方への支援について
・身近な方を自殺で亡くした喪失感の中、自身の困難に対応していくことは非常に難しい。電話やメールを入口として、仲立ちをしながら必要とされる支援につなげる必要がある。
・遺された方は、「自殺対策」「予防対策」という言葉や取組を聞くとつらい気持ちになることを理解して、支援に関わっていく必要がある。